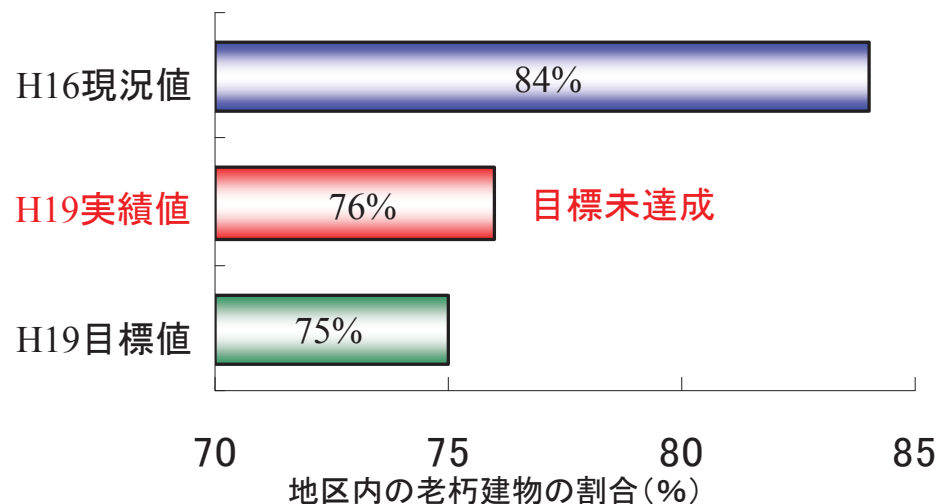


事後評価【パッケージ1：老朽建物率の低下】

要素事業の進捗状況

(H16～H19年度の交付金実績額) / (H16～H19年度の交付金事業費) = 42%

目標値の達成状況



- 建物移転の遅延により要素事業の進捗が遅れており、目標の達成には至りませんでした。
- 一方で、部分的には建物の共同化が実現するなど老朽建物の減少により、災害時に倒壊等の危険性のある建物が減少し、防災性の向上が図られるなど一定の効果が発現しています。
- 今後、事業の進捗管理を徹底し、事業を円滑に進めていけるよう努めます。



淡路駅周辺地区(平成15年撮影)



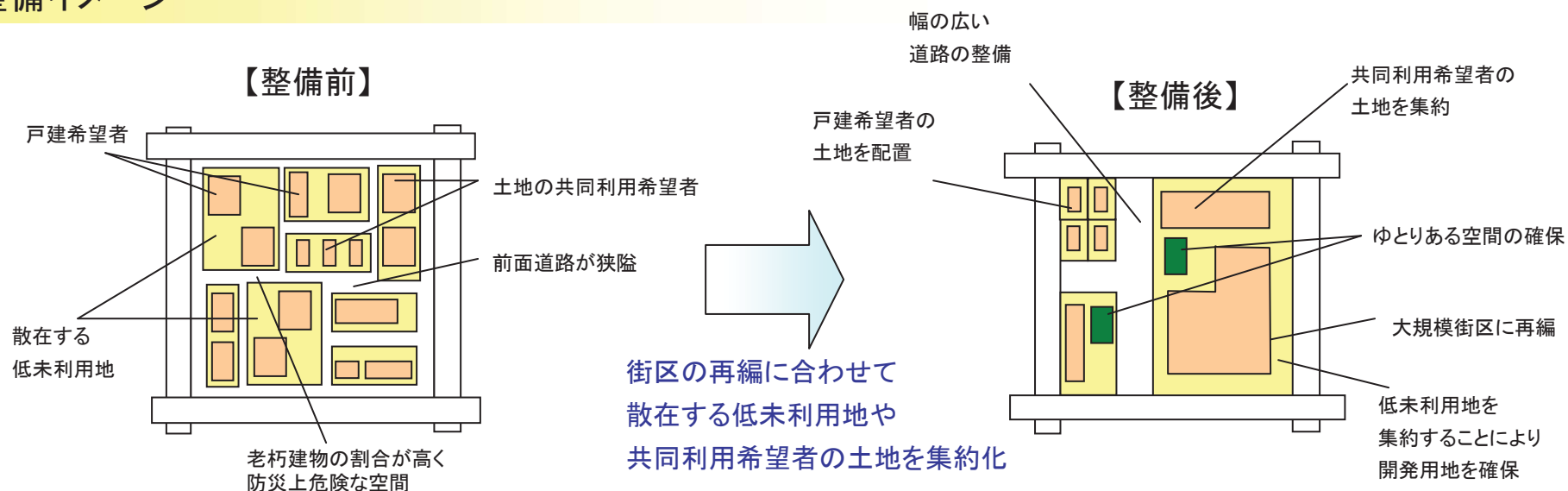
淡路駅周辺地区(平成18年撮影)

成果目標以外の事業効果の発現状況

建物共同化を行うことで、土地利用の高度化が図られ、安全で快適な都市環境の形成が図られました。

【整備事例①】防災性の向上と安全で快適な都市環境の形成

整備イメージ



整備事例(防災性の向上と安全で快適な都市環境の形成)

【整備前】



淡路駅周辺地区(平成15年撮影)

地権者の自主的な
共同建替えのための
敷地条件整備を行い
地域の不燃化を促進



淡路駅周辺地区(平成18年撮影)

【整備後】



高度利用による空間の確保
(平成18年撮影)